

平成24年度

事務事業評価サポーター制度の実施状況について

京都市では、事業の実施結果を点検する「事務事業評価制度」を実施しています。

- ・事業効果の点検
- ・行財政資源の有効活用
- ・市民への説明責任

などを目的として、評価を行っています。



しかし、制度を運用するうえでまだまだ解決すべき様々な課題があります。

事業を評価するのに適切な指標が見出せない…。

事業の成果を客観的な数値で把握できない…。

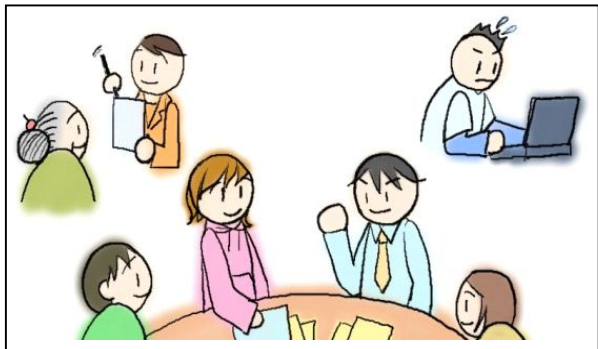
市民に分かりやすい評価になっていない…。



そこで、大学ゼミ等の学生と市役所内から公募した職員とで合同チームを結成し…



事務事業評価制度や、対象となっている分野の事務事業について学んだうえで…



自由な発想、様々な手法で対象分野の事務事業評価をサポートいただき、より良い評価票作りや事務事業の改善に貢献していただきます。

平成24年度の活動対象分野

- ◇ 産業振興分野
- ◇ 観光振興分野
- ◇ 大学・国際化分野

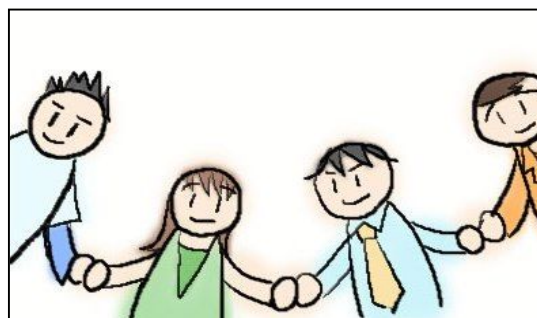
(京都大学、同志社大学及び立命館大学と協働)

本市では、平成15年度から本格実施している事務事業評価制度について、庁内外への更なる浸透など主として運用面での改善を図るため、平成17年度から大学ゼミ等の学生と本市職員が協働し、事務事業評価制度の改善に対する提案や各職場で行われる事務事業評価の取組を支援する事務事業評価サポーター制度（以下「サポーター制度」という。）を実施しています。

この「平成24年度事務事業評価サポーター制度の実施状況について」は、平成24年度のサポーター活動状況について取りまとめたものです。

目次

- 1 事務事業評価サポーター制度とは・・・・・・・・・・・・・1
- 2 平成24年度サポーターチームの活動状況・・・・・・・・・・・・・4
 - (1) サポーターチームの編成・・・・・・・・・・・・・4
 - (2) 活動の概要・・・・・・・・・・・・・5
- 3 評価委員会への活動成果の報告・・・・・・・・・・・・・7
- 4 サポーター活動を終えて・・・・・・・・・・・・・8

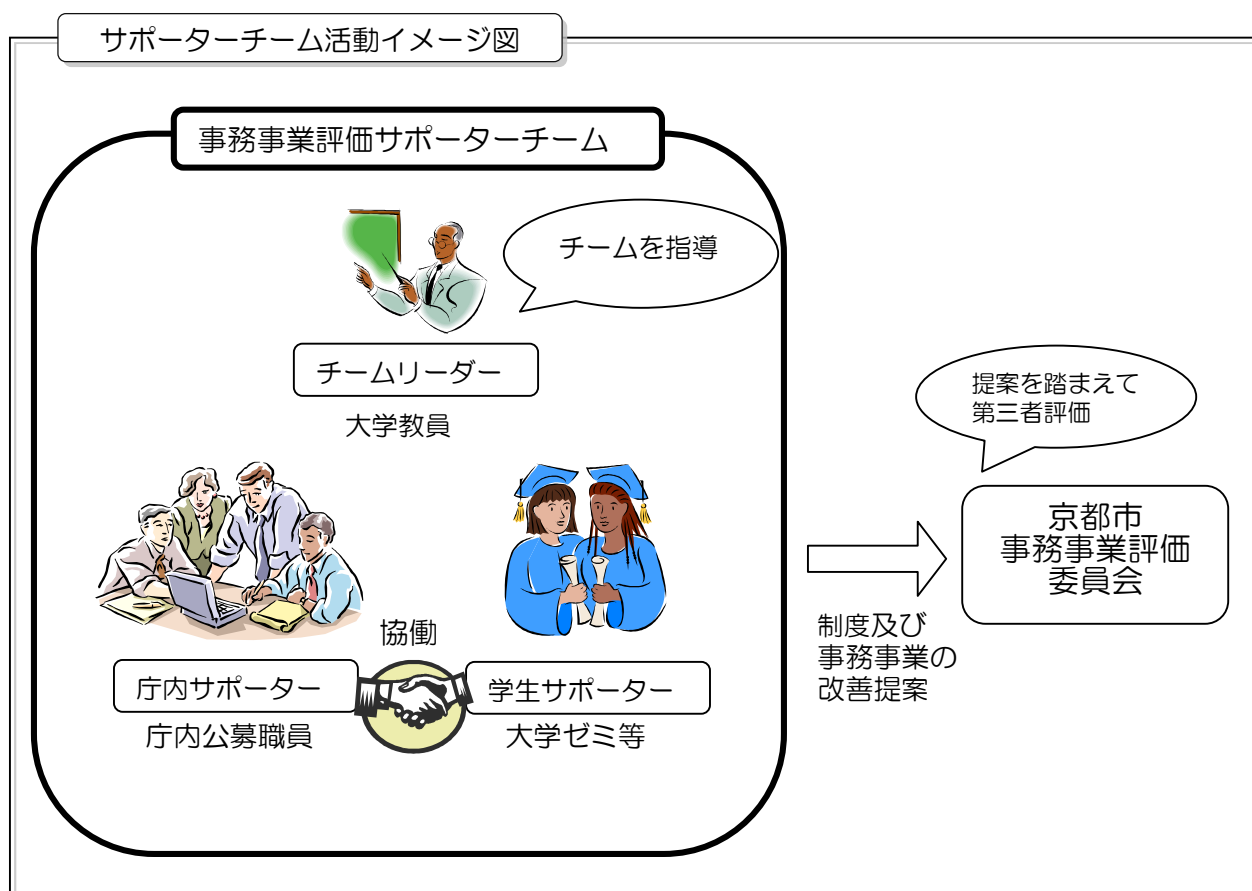


1 事務事業評価サポーター制度とは

◎ サポーター制度が目指すもの

本市では、平成15年度から、本市が実施する事務事業を対象に事務事業評価制度（以下「評価制度」という。）を本格導入し、仕組みとしては全国的にも先進性の高さを評価いただいておりますが、事業の分野によっては事業の有効性や効率性を図るための指標を見出せない、事業成果を数値で把握することが困難であるなど、評価制度を十分に活用できていないものもあります。また、事務事業に関する客観的なデータや数値目標等を記載した事務事業評価票（以下「評価票」という。）はすべて公表していますが、記載内容が難解で市民に対して分かりにくい部分があるなど、評価制度の運用面での改善が今後の課題となっています。

このため、大学ゼミ等の学生と本市職員が協働し、評価制度の改善に対する提案や各職場で行われる事務事業評価の取組を支援するサポーター制度を平成17年度から実施し、学識経験者など外部の委員で構成する京都市の評価制度の第三者評価機関である京都市事務事業評価委員会の補助機関として活動していただいております。



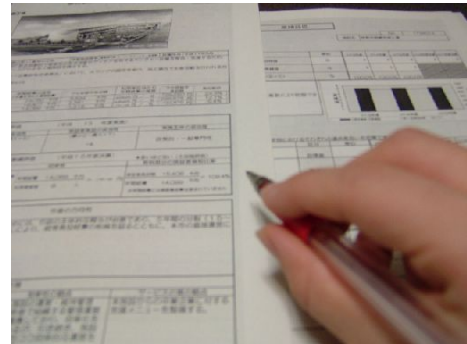
参 考 ①

◎評価制度とは

近年、社会情勢の変化、市民の価値観の多様化等により市民のニーズが拡大する一方で、右肩上がりの経済成長が終えんを迎え、地方自治体は厳しい財政運営を強いられています。

限られた行政資源を有効に活用し、高品質で満足度の高いサービスを安定的に提供していくために、行政の取組の成果を把握、評価し、次に生かす行政評価の手法が登場し、成果指向の行政運営のツールとして近年多くの自治体で取り入れられています。

京都市の行政評価は政策・施策を対象にした「政策評価制度」と、施策目的の実現手段である事務事業を対象にした「事務事業評価制度」により構成されています。このうち評価制度は、個々の事務事業の妥当性、有効性、効率性などを、事務事業を行う所属が自己評価し、より効果的で効率的な事務事業への再構築を目指すものです。



<評価制度の実施結果>

| 事務事業評価 実施年度 | 事務事業評価 対象事業数 (注1) | 今後の方向性 | | | | | | | | 終了 (注2) | 見直しによる 次年度予算 節減額 |
|----------------|-------------------------|-----------|-----------|------------|-----------|----|-----|------------|-----|------------|------------------------|
| | | 充実 事業数 | 継続 事業数 | 見直し 事業数 | 縮小等による見直し | | | 効率化等による見直し | | | |
| | | | | | 廃止 | 休止 | 縮小等 | | | | |
| 15年度 | 1,308 | 150 | 728 | 430 | 127 | 37 | 7 | 83 | 303 | - | 約102億円 |
| 16年度 | 1,285 | 156 | 777 | 352 | 71 | 10 | 4 | 57 | 281 | - | 約56億円 |
| 17年度 | 1,296 | 138 | 825 | 333 | 55 | 23 | 1 | 31 | 278 | - | 約43億円 |
| 18年度 | 1,301 | 141 | 862 | 298 | 64 | 25 | 0 | 39 | 234 | - | 約43億円 |
| 19年度 | 1,348 | 148 | 891 | 270 | 45 | 9 | 0 | 36 | 225 | 39 | 約32億円 |
| 20年度 | 1,370 | 98 | 859 | 358 | 62 | 5 | 1 | 56 | 296 | 55 | 約56億円 |
| 21年度 | 1,384 | 127 | 901 | 302 | 48 | 11 | 1 | 36 | 254 | 54 | 約40億円 |
| 22年度 | 1,345 | 159 | 925 | 207 | 51 | 12 | 1 | 38 | 156 | 54 | 約24億円 |
| 23年度 | 1,345 | 150 | 949 | 177 | 25 | 11 | 0 | 14 | 152 | 69 | 約24億円 |
| 24年度 | 937 | 117 | 629 | 173 | 30 | 1 | 0 | 29 | 143 | 18 | 約23億円 |
| 合計 | | | | | | | | | | | 約443億円 |

(注1) 前年度をもって終了又は廃止した事務事業を除く。

(注2) 平成19年度から「終了」の区分を新たに追加

(参照) 事務事業評価制度ホームページ

<http://www.city.kyoto.jp/somu/gvokaku/hyouka/index.html>

◎京都市事務事業評価委員会とは

事務事業評価は事務事業担当課の自己評価により実施されます。この評価の客観性、透明性を確保するため、京都市では評価委員会を設置し、第三者の立場から評価を行っていただくほか、事務事業評価の手法等についても助言をいただいています。

事務事業担当課は評価委員会による第三者評価を踏まえ、最終的な評価を行います。

【京都市事務事業評価委員会】（平成25年4月1日現在）【敬称略】

北村 亘 委 員 長（大阪大学大学院法学研究科准教授）

中井 歩 副委員長（京都産業大学法学部准教授）

清水 智子 委 員（有限会社キャップス代表取締役）

中川 美雪 委 員（あずさ監査法人 公認会計士）

越智 温子 委 員（NPO法人遊悠舎京すずめ理事）

<事務事業評価委員会の実施状況>

○平成24年度第1回京都市事務事業評価委員会について

<http://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000131993.html>

○平成24年度第2回京都市事務事業評価委員会について

<http://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000135339.html>

2 平成24年度サポーターチームの活動状況

(1) サポーターチームの編成

平成24年度は、京都大学大学院文学研究科 森本 一彦 准教授，同志社大学政策学部 柴田 悠 准教授，立命館大学スポーツ健康科学部 長積 仁 教授をチームリーダーとする3つのサポーターチームが、「産業振興」、「観光振興」及び「大学・国際化」の3分野を対象※として、平成24年7月から活動を開始しました。

※ サポーターの活動範囲は、「はばたけ未来へ！ 京（みやこ）プラン（京都市基本計画）」における27政策を分割し、5年で一巡するように設定しています。

平成24年度事務事業評価サポーターチームメンバー

| | | |
|--------|---------|-------------------------------------|
| (Aチーム) | チームリーダー | 京都大学大学院文学研究科 森本 一彦（もりもと かずひこ）准教授 |
| | 学生サポーター | 8名 |
| | 庁内サポーター | 4名 |
| (Bチーム) | チームリーダー | 同志社大学政策学部 柴田 悠（しばた はるか）准教授 |
| | 学生サポーター | 9名 |
| | 庁内サポーター | 3名 |
| (Cチーム) | チームリーダー | 立命館大学スポーツ健康科学部 長積 仁（ながづみ じん）教授 |
| | 学生サポーター | 6名 |
| | 庁内サポーター | 2名 |

(2) 活動の概要

◎ 活動の経過

7月 第1回会議の開催

事務事業評価サポーターの委嘱状を交付しました。
そして、事務事業評価サポーター制度及び事務事業評価制度について説明を受けるとともに、事務事業評価について、グループ討論及び発表を行いました。

9月～11月 第2～4回会議の開催

活動対象となる個々の事務事業の内容について、所管課の職員から説明を受けるとともに、目標達成度評価の指標や評価票の記載内容の見直しなどについてグループで点検し、発表を行いました。

11月～12月 個別調査、報告資料の作成

評価委員会で報告する事務事業を選定し、事務事業ごとに担当者を決めました。各担当者は、これまでの点検結果を検証するとともに、現地調査や他都市のホームページからの情報収集などを行い、評価票の各指標を含む記載内容及び事業の実施内容についての改善案を検討して、報告内容をまとめました。

12月上旬 第5回会議の開催

評価委員会で報告する事務事業について、チーム内でプレゼンテーションを行うとともに、発表内容について、改善点や補強案について意見を出し合いました。

その後、各担当者は、事務事業評価委員会まで、報告資料の改善や発表の練習に取り組みました。

12月下旬 京都市事務事業評価委員会で活動報告

事務事業評価票の点検結果や事務事業の改善案などについて、評価委員会に報告しました。

◎ 活動内容

1 評価制度について学ぶ

サポーター活動のスタートに当たって、本市の事務事業評価制度について説明を受け、理解を深めました。

2 活動対象分野の事務事業について学ぶ

活動対象分野所管課の職員から、活動対象分野の概要や個々の事務事業の内容の説明を受け、その理解を深めました。

3 評価票の点検と改善案の検討

活動対象となる個々の事務事業評価票について、以下の二つの視点から点検を行いました。

評価票を点検する二つの視点

① 分かりやすいか？

- 評価票の記載内容は、市民に分かりやすいか
(「事業概要」等は、事業の内容が理解できる記載内容となっているか)

② 「目標達成度評価」の指標が適切か？

- 適正な指標で客観的に評価しているか
(事業の「目的」との関係、事業の成果を示す指標となっているか)
- 適切な目標値が設定されているか

点検の対象となった個々の事務事業評価票について、各サポーターが目標達成度評価指標の改善案などを検討しました。

4 事業内容についての提案

現地調査や、他都市の実施状況等の調査を行い、事業の目的達成に向けた事業内容の提案や改善案について検討しました。

5 点検結果のまとめと報告資料の作成

目標達成度評価指標の改善案や事業の目的達成に向けた事業内容の提案など、点検の対象となったそれぞれの事業についての意見や提案を取りまとめ、評価委員会への報告資料を作成しました。

3 評価委員会への活動成果の報告

12月に開催した平成24年度第2回京都市事務事業評価委員会において、「世界歴史都市連盟事務局運営事務」、「京都市ユニバーサルツーリズム推進事業」など7つの事務事業について、それぞれの事務事業における目標達成度の評価指標や事務事業に対する改善案について、報告を行いました。

【平成24年度第2回事務事業評価委員会の様子】



※ 活動報告及び事務事業評価委員会の内容については、以下のホームページを参照ください。

○平成24年度第2回京都市事務事業評価委員会について

<http://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000135339.html>

4 その他

11月に公開で開催された平成24年度第1回事務事業評価委員会において、各サポーターチームからそれぞれ1～2名のサポーターが、評価者として参加しました。

※ 第1回事務事業評価委員会の詳細については、以下のホームページを御参照ください。

○平成24年度第1回京都市事務事業評価委員会について

<http://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/0000131993.html>

4 サポーター活動を終えて

平成24年度に活動いただいた学生サポーターから、今回のサポーター活動について、以下の感想をいただきました。

「新しい世界への想像力」

京都大学 学生サポーター

今回、京都市が実施している事務事業について調べることを通して、我々の知らない京都市を知ることができました。また、庁内サポーターの方ともお話をすることを通して市職員を身近に感じることができました。

ユニバーサルツーリズムという素晴らしい取り組みを担当者の方から説明を受け、実際に車いすで観光スポットを体験することができるのと同時に、普段いかに自分が想像力を鈍らせていたかを痛感しました。

また、京都市が始めた歴史都市の交流を推進する世界歴史都市連盟や観光客のニーズに対応するための観光アンケートなど京都市がより良い都市として展開するために不可欠な事業が行われていますが、一般の人に周知され、有効活用されるべきだと思いました。

そのためには、この京都市事業評価サポーター制度が、これからも多くの人々を巻き込んで、京都市について考える場となることが理想だと思います。特に学生の活用は重要な課題ではないかと思います。

「学生の意見を京都市に届ける」

同志社大学 学生サポーター

最初は、事務事業評価と聞いて具体的な事務事業がすぐに思い浮かびませんでした。そんな私でしたが、サポーター会議では、関心をもった事務事業について担当者の方が分かりやすく説明してくださり、時には担当者の方と質疑応答を繰り返すことで、豊富な知識と多角的な視点を身につけることができました。サポーター活動を通じて、自分がいかに無知であるか、市が多分野で数多く事務事業を行っていること、そして私たちがいかにそれらに触れてこなかったのか、ということに改めて感じました。私たち市民のために実施されている事業であるのだから、より積極的に私たちも関心を持つことが、よりよい市政を実現する第一歩となるはずです。

最後に、今回の活動を支えてくださった京都市役所の皆様、そして共に議論を交わした全ての皆様、ありがとうございました。この活動、そして京都市の事業が更なる発展を遂げることを願っています。

「なぜ」を追求することの大切さ

立命館大学 学生サポーター

今回のサポーター活動を通して、特に勉強になったと感じるのが「なぜ」という視点にこだわって物事を考えることの重要性です。所管課の職員の方々からの説明や、サポーターチームでの調査の中で、疑問に思ったことを「なぜ」そうなったのかという視点で分析し、話し合い、解決案の作成を行いました。その過程で、原因や背景の根本は何なのかを考え、物事の本質を見抜く力を養うことができたと思います。また、評価委員の先生方、庁内サポーターの方々、他大学の学生と交流することができたことは良い経験になりました。大学内の学習の中だけでは交流できない方々と交流することで、多様な価値観に触れることができました。今後、大学での学びを深める上で、また社会に出る上でも非常に意義のある活動を行うことができたと思います。

最後に、我々サポーターの活動を支えて下さった職員の方々、評価委員の先生方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

【サポーター活動の様子】



(評価制度について学ぶ)



(グループ内での意見交換)



(所管課からの説明を受ける)



(活動報告会に向けてグループ内で発表)